

# Keeper LABO

## 2014年2月総括

関東地区は2週連続の大雪が降り、中間報告では「今年の2月はどうなってしまうのだろうか?」と心配しましたが、残りの1週間で巻き返しできました。昨年対比がある店舗で105%、内容は「西高東低」で、中・西日本で112%、東日本では99%という結果でした。

1年で1番実績の低い2月ですが、店舗間では順位に対して大きく盛りあがりを見せました。特に常勝、足立店に負けじと、大須店と東海店が「業販」や「地場企業への営業活動」などの自店の強みを生かし、キーパーラボで1番を取るべく熾烈な争いがありました。

キーパーラボは待ちの商売になりがちですが、積極的に外へ出て営業活動をする事で、しっかりと結果が出ることを証明してくれました。

3月に入りました。3月と言えば、「黄砂」「花粉」が多くなりコーティングと洗車のマインドが大きく盛り上がりを見せます。加えて、新車の納車が特に多いと予想される今年は、新車へのコーティングの需要も大きく期待できます。

そして「キーパー技術コンテスト」大きく盛り上がりを見せています。春本番に突入です。

事業本部 畠中修・賀来聡介

2月	順位(位)	コーティング台数(台)		売上金額(円)				板金・その他(円)	合計(円)	前年対比(%)	人時生産(円/時)
		クリスタルキーパー	タイヤアクア	洗車+コーティング	一車	重内関連	業販				
① 札幌	13	44	9	1,928,506	615,253	160,286	302,885	443,223	3,450,153	114%	4,785
② 新潟県庁前	32	23	5	927,518	321,040	39,719	0	0	1,288,277	-	3,320
③ さいたま	30	20	7	1,187,169	217,582	78,443	49,143	23,471	1,555,808	-	3,339
④ 浦和美園	14	60	15	2,626,267	394,802	134,386	216,509	38,769	3,410,733	156%	5,020
⑤ 草加	6	48	20	3,404,236	635,860	179,903	67,934	52,040	4,339,973	137%	5,395
⑥ 船橋	31	20	8	1,305,444	153,697	94,617	0	1,966	1,555,724	-	3,346
⑦ 柏	22	33	15	2,113,623	451,037	109,108	80,953	3,432	2,758,153	87%	4,947
⑧ 松戸	4	32	16	2,642,698	878,788	194,606	55,021	962,393	4,733,506	112%	6,184
⑨ 松戸東	27	26	6	1,769,912	298,900	180,405	22,848	20,911	2,292,976	91%	4,376
⑩ 足立	1	97	17	4,551,527	740,476	423,025	439,140	-32,641	6,121,527	93%	5,007
⑪ 板橋	7	53	13	3,563,046	536,913	178,678	6,592	11,905	4,297,134	81%	5,509
⑫ 世田谷	10	39	28	2,796,288	719,473	106,261	78,879	0	3,700,901	-	5,729
⑬ 八王子	9	41	14	3,028,742	572,719	258,737	13,353	1,659	3,875,210	84%	4,554
⑭ 相模原	20	32	14	2,395,884	419,404	135,996	0	0	2,951,284	86%	4,308
⑮ 上溝	23	35	10	2,170,595	395,651	132,165	0	5,872	2,704,283	87%	4,404
⑯ 豊田	21	32	14	1,942,409	551,022	172,933	190,180	62,372	2,918,916	130%	5,255
⑰ 岡崎	5	39	28	3,307,499	758,635	278,217	211,555	9,231	4,565,137	96%	5,913
⑱ 安城	16	41	16	2,409,481	592,099	125,603	77,031	28,050	3,232,264	90%	4,778
⑲ 知立	28	27	5	1,528,465	330,051	229,489	101,852	39,362	2,229,219	73%	4,098
⑳ 刈谷	15	37	16	2,552,000	530,805	190,664	0	122,562	3,396,031	87%	4,720
㉑ 大府	11	36	16	2,548,426	556,831	237,319	73,154	250,568	3,666,298	109%	4,985
㉒ テクニカル	25	7	7	576,790	67,521	6,811	0	1,748,391	2,399,513	157%	3,180
㉓ 東海	3	37	17	3,000,013	1,415,649	188,739	280,779	96,149	4,981,329	128%	5,792
㉔ 鳴海	26	33	7	1,732,751	333,275	130,123	56,155	63,298	2,315,602	81%	4,276
㉕ 大須	2	61	29	2,849,780	1,143,569	115,816	908,127	5,729	5,023,021	146%	6,693
㉖ 中川	19	39	12	1,992,747	427,714	139,162	349,102	93,470	3,002,195	111%	4,914
㉗ 菟目寺	18	28	15	2,341,913	269,765	197,941	111,886	86,429	3,007,934	124%	4,980
㉘ 一宮	24	35	18	2,112,712	229,348	103,653	138,268	34,455	2,618,436	116%	4,651
㉙ 鈴鹿	8	63	19	3,307,080	344,659	221,655	149,509	46,710	4,069,613	133%	5,084
㉚ 宝塚	29	14	15	1,522,956	246,273	42,093	0	3,365	1,814,687	-	3,395
㉛ 新瀬	12	45	21	2,916,655	490,491	154,914	0	23,946	3,586,006	139%	4,957
㉜ 高松西	17	34	11	2,163,491	764,489	64,029	0	52,698	3,044,707	99%	4,273
総合計		1,211	463	75,216,623	16,403,791	5,005,496	3,980,855	4,299,785	104,906,550	-	4,755
前年対比		115%	153%	116%	128%	98%	110%	117%	116%★105%	119%	

★前年実績のある店舗のみの値です。

## #37 KeePer TOM'S RC Fを創る技術者たち

キーパーは今年もスーパーGTでTOM'Sの1台をスポンサードして、キーパーコーティングの認知度を高める広告活動を行う。認知度を高めるには何よりも“優勝すること”が最も効果的だ。

レースにおいて優勝するためには、神のみぞ知る“運”が左右することがある。しかし優勝するクルマを創るのは、間違いなく人間の手によってである。2014年新型#37 KeePer TOM'S RC F 製作真只中のTOM'Sの工場を訪れた。



2014年新型#37 KeePer TOM'S RC F Photo by Yoshifumi Nakamura

静岡県御殿場市。快晴ならば富士山の絶景が拝めるはずだが、その日は異常なまでの霧に包まれていた。三島駅から車で約30分。霧の中にTOM'Sの工場が現れた。意外と地味でひっそりとした印象だ。出迎えてくれたのは、レース営業企画部長の井藤さんと技術部長の桐生さん。工場に入ると、地味でひっそりとした印象とは裏腹に、ピンと張り詰めた空気を感じた。



営業部長の井藤さん(左)と技術部長の桐生さん(右)

塗装が施される前のボディ。軽くて強いカーボンが使用され、空力を考慮したデザインになっている

今年からGT500クラスは全車が新しい車に変わる。トヨタ、日産、ホンダすべて同じモノコックを使用することになる。ドイツのDTMと共通とし、将来一緒に走ることを念頭においているようだ。モノコックは全車同じで、それぞれの空力を工夫したボディを被せて競う。もう一つ大きな変更点はエンジンだ。4000cc・V8自然吸気から2000cc四気筒のターボエンジンになる。去年よりも軽くなって、しかもパワーアップする。その分、熱も発生しやすくなり、熱を抑えるための遮熱板などの工夫も必要になる。「モデルが変わるときこそ、まずはドライバーの安全を第一に考えて作っていかねばなりません」と桐生部長は言う。車に使われる部品は、ボルトの数だけでも2,000本を超える。数ミリ単位の大さきものもある。一つでも欠けたり、ゆるんでいたりすれば、致命的なトラブルにつながり、ドライバーの命にも関わってくる。安全第一に、より軽く、より速い車を作ることがメカニックたちの使命だ。ボルトを少しずつ削って、少しでも重量を軽くする。気の遠くなる作業だ。5、6人のメカニックが関わり、3~4週間で組立てが完成する。

メカニックたちは、ボルトなどの金属や、カーボン、ゴム、ガラス、プラスチックといったものまで素材を熟知している。さらにそれらを加工するための刃物や工具についてすべてを知らないと良い車は作れない。海外では機械加工、部品加工、組立て、溶接などそれぞれの作業が分業になっているのがほとんどなのに対して、日本では素材を選ぶところから関わって、道具も自分で選んで、なおかつそれを自分にあつたも

のに作り替えるのだという。「重量を軽くするためのカーボンも東レと三菱レーヨンが開発した日本製のジャンボジェットにも使われているんです。日本のものづくり技術はやはりすごいと思います。車のドアを開けてみて下さい」と井藤部長に促され、そっと開けてみると予想以上に軽い。同様の大きさの一般車に比べて約100kgは軽くなっているという。「故障したらどこが故障しているのか、なぜ故障したのか分かるまで徹底的に分解します。うちでも洗濯機やテレビが壊れたら分解しちゃいけないものでも、分解してしまいます」と桐生部長は笑う。「ドライバー1本あって、開ければ知識になる。故障には必ず原因があります。神様が作ったわけじゃないから。車は人間が作ったものだから」。メカニックたちの豊富な知識と高い技術、あくなき探究心。人の手によって“優勝する車”は完成する。今年のレースは大いに期待できそうだ。

